

## 加曾利E式土器資料集成研究④

### —千葉市域の加曾利E式終末期の様相について—

館 祐樹

#### はじめに

当館では、重点研究課題として「千葉県を中心とした関東地方の縄文時代中期後半の研究」と、「土器編年研究上の課題を解説するための基礎資料とする」ことを目的に、平成30年度に千葉市内、令和元年に印旛地域、令和2年に東葛地域を対象として、加曾利E式土器出土遺跡の集成、博物館での企画展示を開催してきた。

**展示概要** 令和3年度は、称名寺式土器成立以降の段階に下る加曾利EIV式土器のながれを受け離ぐ土器（加曾利EV式土器）をテーマに、平成30年度に当館で開催した『加曾利E式展—千葉市内編—』の展示資料に加え、縄文時代中期末から後期初頭にかけての大規模集落として注目される千葉市餅ヶ崎遺跡の出土資料を中心に、市内から出土した加曾利EIII式から称名寺I式土器を集め、令和4年1月8日～3月6日に「加曾利E式土器千葉市編2—加曾利EIV式土器とその末裔たち」と題し、当館で展示を行った。

**展示構成** 加曾利E式期後半にキャリバー形土器に加わる意匠充填系土器群・横位連携弧線文土器群について、文様構成や施文技法、文様により分けられる類型を示し、EIII式からEIV式への系統的な変遷を追った。さらに、称名寺式成立後も加曾利E式の系譜をひく入組系横位連携弧線文土器を主とした、加曾利EV式土器を展示了。また、千葉市域における加曾利EV式と称名寺I式の共伴事例や、当該期の異系統土器群である近畿地方の北白川C式系土器群について解説した。

#### 1 加曾利EIII・IV式土器

加納は、加曾利E式期後半に加わる口縁部が簡略化した土器群について、その文様構成から意匠充填系土器群（渦巻文様など意匠を器面全体にはめ込むもの）と横位連携弧線文土器群（沈線による弧線を横向きに連続させる文様を施すもの）と呼称した。共伴資料から系統分析を行い、文様抽出技法・図形により分けられる各類型を示した（加納1994、1995）。加納が示した類型を参考に千葉市域の資料の説明をしたい。

##### （1）意匠充填系土器群（第1図）※資料番号は第1表に対応

器形のくびれ部を境として、施文域が胴部上半と下半に分けられる。渦巻や筋錐状の円形意匠を主文様として配し、その間をU字状などの副文様で充填している。No.14は隆帯による渦巻意匠を主文様に施している。No.26は胴部上半に幅3～4mmの沈線による渦巻意匠を主文様に施している。No.13は胴部上半に幅4～5mmの沈線による筋錐状の円形意匠を主文様に施している。また、副文様からは横位連携弧線文の弧線の影響を伺える。やや太い沈線による施文で、文様間の連続性があることから加曾利EIII式とした。No.31・38は、幅1～2mmの細い沈線による渦巻意匠文を施している。No.35は主文様に隆帯による球状の意匠を施している。単位文化が進んでいること、隆帯の両脇を丁寧になでていることから、加曾利EIV式とした。

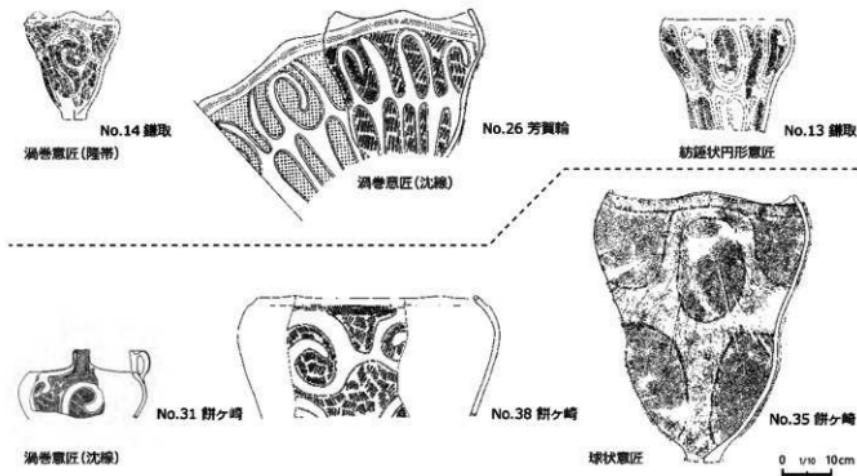
## (2) 横位連携弧線文土器群（第2図）

**対向系横位連携弧線文土器** 器形のくびれ部を境として、施文域が胴部上半と下半に分けられる。上半と下半に施文される横位連携弧線文がくびれ部で上下に対向している。対向系横位連携弧線文の土器の成立について、加納は「キャリバー形土器と連弧文土器の接触」が大きく関与していることを指摘している。No. 25は幅3~4mmの沈線によりU字状の弧線文が連続的に施されることから加曾利E III式、No. 36は幅1mmの沈線により先端部が鋭角に近い弧線文が施されることから、加曾利E IV式とした。

**入組系横位連携弧線文土器** U字状の弧線文がくびれ部で対向せず、弧線が上下に交互に入り組む施文をしている。No. 8は幅3~4mmの沈線により、上下に入り組む弧線文を交互に施していることから、加曾利E III式とした。No. 30は隆帯によるU字状の弧線文を交互に入り組ませている。隆帯の両脇を「寧」になでて調整していることから、加曾利E IV式とした。

## 2 加曾利E V式土器（第3図）

称名寺式に併行する加曾利E式系土器群は、今村により「統加曾利E式」（今村1981）として呼称された。稻村は「加曾利E IV式に統くもの」と捉え、体系的に整理を行った。加曾利E IV式土器の主要な3類型である、A類型「対向U字交錯文類型」、B類型「満文逆U字交錯文類型」、C類型「併行垂下文類型」の、後期初頭における①「胴部文様の上下2帯化」、②「単位文の生成」、③「区画文生成」、④「帯縄文化」、⑤「下部文様連繋」の変化を示した（稻村1990）。石井は「称名寺式との相互関係を有しつつも、加曾利E IV式に連続する形で把握される土器群」と捉え、「IV式に連続する呼称をなすのが最も適切」とし、「加曾利E V式」と呼称した（石井1992）。また、鈴木が加曾利E式系土器の口縁部形態の変遷を段階的に示した、「口縁部無紋帶の形成」（鈴木1991）や「口端内屈部の発生」（鈴木1994）を参考に千葉市域の加



第1図 意匠充填系土器

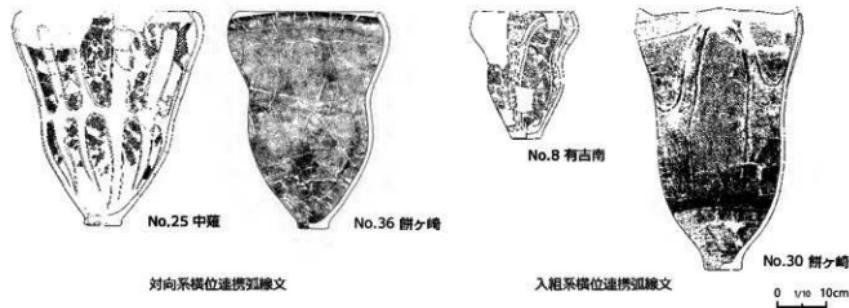
曾利E V式を見ていきたい。

千葉市域の加曾利E V式は、E IV式から続く入組系横位連携弧線文土器（「対向U字交錯文類型」）が主体となる。No. 39は口縁部がほとんど内湾せず直線的に立ち上がる。4単位波状の無文帯を有し、波頂部下に隆帯による逆U字状意匠を配し、対向するU字状意匠と交互に施される。充填繩文となり、隆帯側面には繩文が施されており、E IV式に見られた隆帶両脇の調整が見られなくなる。No. 19は波頂部に貼付文を付した4単位の波状口縁で、波頂部下に沈線による逆U字状意匠を配し、胴上半のU字状意匠と交互に施している。

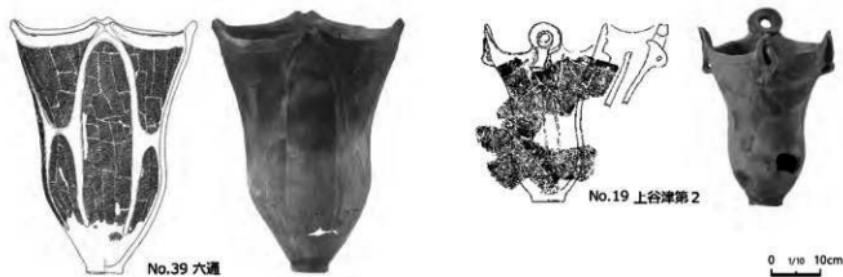
### 3 注目される土器について（第4図）

加曾利E IV式、若しくはE V式の判断に迷うものや、加曾利E式と称名寺式両方の文様要素を有するもの、称名寺式、大木10式の影響が認められる資料について取り上げた。

餅ヶ崎遺跡12号住居跡出土土器について No. 28は施文域上半のU字状意匠と、施文域下半の逆U字状意匠の懸垂文効果を有する意匠からなる。施文域上半のU字状の意匠内には、加曾利E式系土器に一般的な球状意匠を配し、この球状意匠を繩文地で描出することから、U字状意匠の全体は無文で表出することと



第2図 横位連携弧線文土器



第3図 加曾利E V式土器

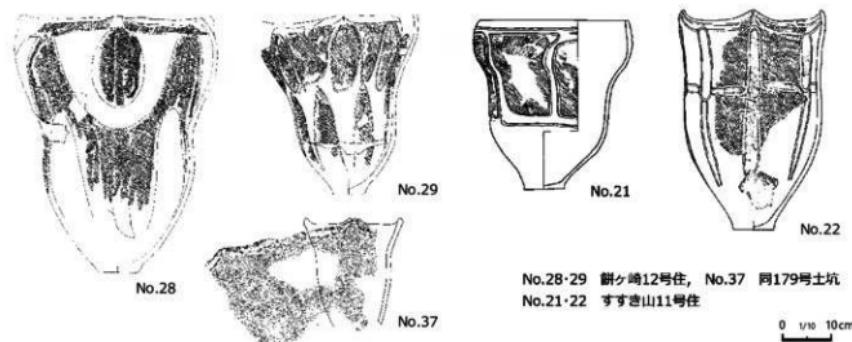
なり、個体全体の図／地効果（縄文／無文）が反転する部分があり、一般的な個体群とは趣を異にするが、これらの様相をもって、No. 28さらには一括資料であるNo. 29を積極的に後期とする根拠にはなり得ない。加曾利EIV式であるかEV式であるかの判断に迷う個体群であり、「加曾利EIV式・EV式土器」とした。

**餅ヶ崎179号土坑出土土器について** No. 37は加曾利E式土器と称名寺式土器の2つの要素から解釈できる土器であり、加曾利E式土器の要素として、4単位波状の無文帯を有し、細い沈線により梢円や横位連携弧線文の意匠を施している。また、称名寺式土器の要素としては、口縁が直線的な立ち上がり、沈線によるJ字状の意匠を施している。のことから、後期に下る可能性が高く、「加曾利EV式・称名寺式土器」とした。

**すすき山遺跡11号住居跡出土土器について** No. 21は、①意匠施文域下端に横位の区画文を有している。②縄文地の方形区画文の効果を有している。No. 22は、③梢円形の無文意匠が個体くびれ部で横位に連携する。④縦横に梢円形の無文意匠によって、縄文地の意匠が方形区画文の効果を有している。①～④の特徴には、称名寺式土器や大木10式土器の影響を認められ、これらの土器群は後期に下っている可能性を指摘できることから「加曾利EV式」とした。

#### 4 加曾利EV式と称名寺I式土器の共伴事例について

**愛生遺跡1号住居跡（第5図）** 当該住居跡は、柄鏡形住居で深さが主体部で60cm、張出し部で80cmを測り、遺存状態はよい。No. 1は口縁部がほとんど内湾せず立ち上がる。4単位波状の無文帯を有し、波頂部下に隆帶による逆U字状意匠を配し、U字状意匠と交互に入り組む。隆帶側面には縄文が施される。No. 2は両耳壺で口縁部は無文となり、隆帶で区画される。隆帶脇、隆帶上に縄文が施される。沈線による渦巻を複合させた意匠を施す。No. 3は口縁が直線的に立ち上がり、口縁内面には稜が作出される。4単位の波状口縁で、窓枠状の区画が波頂部間に2つずつ配置される。胸部には球状の意匠を施している。No. 4は縄文による縦長のJ字状の意匠を波頂部下に配している。のことからNo. 1・2は加曾利EV式、No. 3・4は称名寺I式とした。No. 1は連結部のピットの埋甕、No. 2は柄の先端部の埋甕、No. 3は床面直上、No. 4は覆土上層より出土している。また別の遺構であるが、No. 6は口唇部に刻みを有し、口縁部に深い沈線による窓



第4図 注目される土器

柱状の文様を施しており、中津式の影響を受けたものと考えられる。

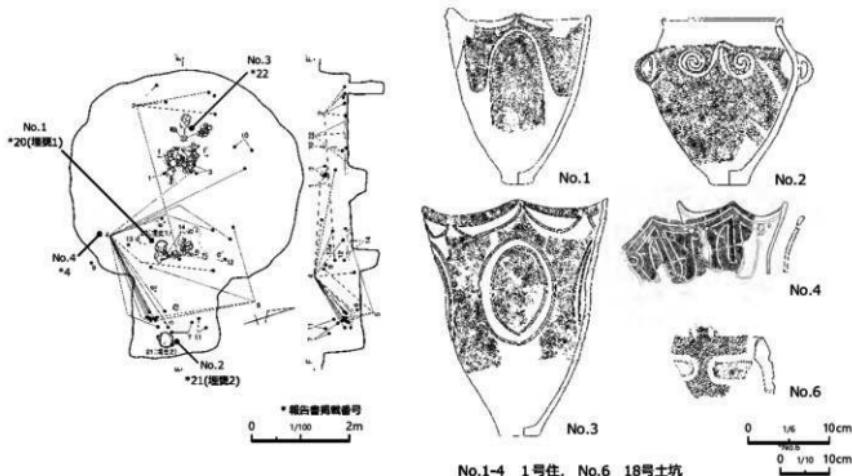
**上谷津第2遺跡6号住居跡（第6図）** No.14は直立気味に立ち上がり、4単位波状の無文帶を有している。胴部は縄文のみを施している。No.16は縄文によるJ字状意匠を施している。No.14は加曾利EV式、No.16は称名寺I式とした。No.14は柄鏡形住居跡の柄の先端部の埋甕、No.16は床面直上から覆土中にかけて出土している。

**上谷津第2遺跡7号住居跡（第6図）** No.17は直立気味に立ち上がり、4単位波状の無文帶を有している。隆帯による逆U字状の意匠を施し、隆帯側面には縄文が施されている。No.18は口縁が4単位の波状を呈し、2本1対の突起を有する。胴部にはJ字状意匠が上半と下半で反転するような表現を施している。No.17は加曾利EV式、No.18は称名寺I式とした。No.17・18共に覆土中より出土している。

**海老遺跡36号住居跡（第7図）** No.10は口縁が隆帯によって区画された無文帶となり、胴部上半には、波頂部間に細い沈線によるU字状意匠を配し、中に縄文を施している。さらにその外側にU字状の沈線を施しているが下部で連結はしていない。No.11は、口縁部に帶縄文を施し、胴部には上下に長い紡錘状意匠を配し、さらに紡錘状意匠を縦位に分割した文様を隣に連結させている。No.12の小突起部は、加曾利EV式土器の把手に散見される捻転風の効果があるとも捉え得る。No.10・12は加曾利EV式、No.11は称名寺I式とした。No.10は柄の先端部の埋甕、No.12は鉢で、今回図示していないが、柄の基部の埋甕で、縄文のみの深鉢と入れ子状態で検出された。No.11は床直から出土している。

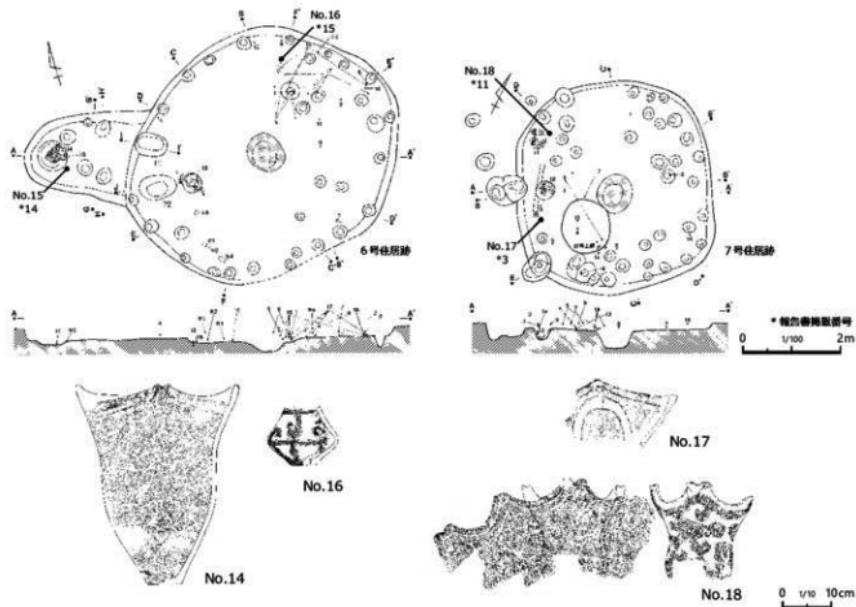
## 5 異系統土器群について

当該期の異系統土器として、餅ヶ崎遺跡から出土した近畿地方に祖型をもとめることのできる北白川C式系土器群について資料を展示した（加納2020）。当該土器群は、加曾利E式土器からの系譜から生成す

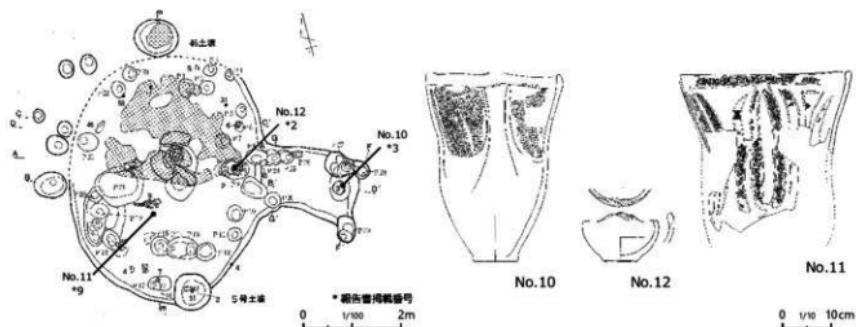


第5図 愛生遺跡1号住居跡出土土器

る土器群ではなく、近畿地方中期終末の北白川C式土器の系譜上で理解することができる土器群である。なお、中期終末北白川C式土器のすべてが所謂中津式土器に変化するのではなく、中期終末の顔つきのまま後期に下る土器群の存在が想起され、ここに示した土器群も後期に下る可能性を有していることから「中期末～後期初頭」と標記した。



第6図 上谷津第2遺跡出土土器



第7図 海老遺跡36号住居出土土器

## おわりに

今回展示した千葉市域の加曾利E式を中心概観してきた。千葉市域ではEIV式から続く入組系横位連携弧線文土器（「対向U字交錯文類型」）が主体となり、稻村が「渦文逆U字交錯文類型」、「併行垂下文類型」としているものは、ほぼ見られないようである。今後、千葉市域に限らず、県内各地域の加曾利EV式の出土事例を収集し、EV式の詳細な変化や、称名寺式や他地域の土器群との影響や相互関係などの検討を進めていきたい。

また、千葉市域では、餅ヶ崎遺跡をはじめ、愛生遺跡、海老遺跡、すすき山遺跡など、当該期になると葭川流域に集中して集落が立地するようになる。当時の立地の特性や、各遺跡間の関係なども検討する必要がある。

## 謝辞

本企画展の企画立案から展示、本稿の執筆にいたるまで、加納実氏、小澤政彦氏には多くの御指導・御教示を賜りました。心より感謝する次第であります。

## 参考・引用文献

- 石井 寛 1992「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊（財）横浜市埋蔵文化財センター
- 石井 寛 2016「関東南西部の称名寺式土器」「称名寺貝塚と称名寺式土器」 横浜市歴史博物館
- 稻村晃嗣 1990「加曾利E系列の土器群」『調査研究集録』第7冊（財）横浜市埋蔵文化財センター
- 今村啓爾 1977「称名寺式土器の研究」（上・下）『考古学雑誌』第63巻第1・2号
- 今村啓爾 1981「柳沢清一氏の「称名寺式土器論」を批判する」『古代』71 早稲田考古学会
- 加納 実 1989「千葉県における加曾利E式土器後半の様相」『縄文中期の諸問題』 群馬県考古学研究所
- 加納 実 1994「加曾利E III・IV式土器の系統分析—配列・編年の前提作業として—」『貝塚博物館紀要』第21号 千葉市立加曾利貝塚博物館
- 加納 実 1995「下総台地における加曾利E III式期の諸問題—集落の成立に関する予察を中心に—」『研究紀要』16 財団法人千葉県文化財センター
- 加納 実 2016「関東東部の中継最終末から後期初頭の土器群」「称名寺貝塚と称名寺式土器」 横浜市歴史博物館
- 加納 実 2020「【資料紹介】千葉市若葉区餅ヶ崎遺跡における異質な土器群—近畿地方北白川C式系土器群の紹介を中心に—」『貝塚博物館紀要』第46号 千葉市立加曾利貝塚博物館
- 加納 実 2021「【研究ノート】餅ヶ崎遺跡における北白川C式系土器出土の背景—（1）近畿・東海地方中継末～後期前半における石器組成—」『貝塚博物館紀要』第47号 千葉市立加曾利貝塚博物館
- 鈴木徳雄 1991「称名寺の変化と文様格の系統」『土曜考古』第16号
- 鈴木徳雄 1994「称名寺式の形制と施文法」『東海大学校地内遺跡調査団報告』4
- 鈴木徳雄 2007「称名寺式土器研究の諸問題—南関東地域の資料を中心に—」『中期終末から後期初頭の再検討』 縄文セミナーの会
- 吉田 格 1960「横浜市称名寺貝塚発掘調査報告」「東京都武蔵野郷土館調査報告書」第一冊 武蔵野文化協会

第1表 展示資料一覧(資料名＊は千葉県教育委員会が所蔵、それ以外は千葉市教育委員会が所蔵)

No.	遺跡名	遺構名	資料名	所収文献
1	①愛生遺跡	1号住居跡	加曾利E-V式遺跡*	文献1
2	①愛生遺跡	1号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献1
3	①愛生遺跡	1号住居跡	浜名寺I式窓跡	文献1
4	①愛生遺跡	1号住居跡	浜名寺I式窓跡	文献1
5	①愛生遺跡	19号土坑	浜名寺I式窓跡	文献1
6	①愛生遺跡	18号土坑	浜名寺I式窓跡	文献1
7	①愛生遺跡	55号土坑	加曾利E-V式窓跡*	文献1
8	②有吉所貝塚	130号土坑	加曾利E-V式窓跡*	文献2
9	⑦ならす下遺跡 A-04号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献3	
10	④海老遺跡	36号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献4
11	④海老遺跡	36号住居跡	浜名寺I式窓跡	文献4
12	④海老遺跡	36号住居跡	加曾利E-V式窓	文献4
13	③縄文遺跡	4号住居跡	加曾利E-V式窓跡*	文献5
14	③縄文遺跡	42号住居跡	加曾利E-V式窓跡*	文献5
15	③上谷津原2遺跡	6号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献6
16	③上谷津原2遺跡	6号住居跡	浜名寺I式窓	文献6
17	③上谷津原2遺跡	7号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献6
18	③上谷津原2遺跡	7号住居跡	浜名寺I式窓跡	文献6
19	③上谷津原2遺跡	16号土坑	加曾利E-V式窓	文献6
20	③すき山遺跡	11号住居跡	加曾利E-V-V式窓跡*	文献7
21	③すき山遺跡	11号住居跡	加曾利E-V-V式窓跡	文献7
22	③すき山遺跡	11号住居跡	加曾利E-V-V式窓跡	文献7
23	⑤御生新山遺跡	6号土坑	加曾利E-V式窓跡	文献8
24	⑤御生新山遺跡	屋外單独出土	加曾利E-V式窓跡	文献8
25	⑥中塙遺跡	屋外單独出土	加曾利E-V式窓跡*	文献9
26	⑥芳賀遺跡	134号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献10
27	⑦縄ヶ崎遺跡	3号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献11
28	⑦縄ヶ崎遺跡	12号住居跡	加曾利E-V-V式窓跡	文献11
29	⑦縄ヶ崎遺跡	12号住居跡	加曾利E-V-V式窓跡	文献11
30	⑦縄ヶ崎遺跡	13号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献11
31	⑦縄ヶ崎遺跡	17号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献11

文献1. 千葉市文化財調査会 2000『千葉市愛生遺跡』

文献2. 千葉市教育振興財団 2008『千葉県教育振興財团調査報告604—千葉東南部ニュータウン40—』

文献3. 千葉市教育振興財团田園都市文化財調査センター 2004『千葉市平和公園遺跡群II—ならす下遺跡—』

文献4. 千葉市文化財調査会 1996『千葉市愛生遺跡—平成4年度発掘調査—』

文献5. 千葉市文化財センター 1993『千葉市南西部ニュータウン18—縄文遺跡—』

文献6. 千葉市教育振興財团田園都市文化財調査センター 2007『千葉市下見町遺跡群』

文献7. 美術の段、庄司、瓦 1972『千葉市御野町すき山遺跡発掘調査報告書』『貝塚博物館紀要5』

文献8. 千葉市教育振興財团田園都市文化財調査センター 2007『千葉市再生新町遺跡』

文献9. 千葉市文化財センター 1988『千葉市中郷遺跡—千葉東部南北線上に残る埋蔵文化財発掘調査報告書—』

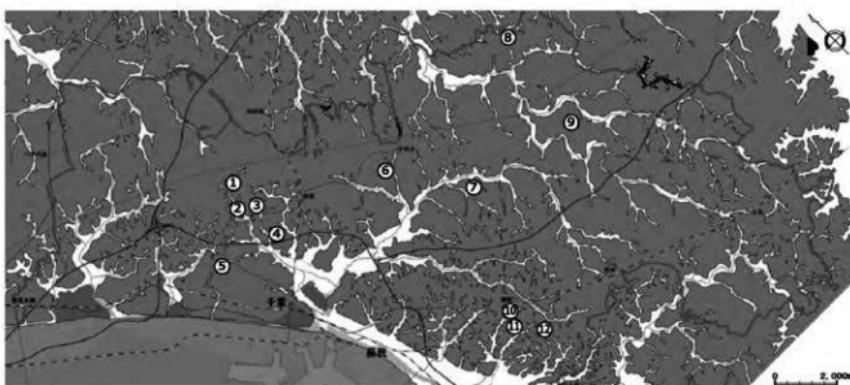
文献10. 千葉市文化財調査会 1988『千葉市中郷遺跡—千葉市動物公園第1期工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

文献11. 千葉市教育委員会 2019『千葉市縄ヶ崎遺跡—千葉市動物公園第1期工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』

文献12. 千葉市教育振興財団文化財センター 2007『千葉東部ニュータウン37—千葉市佐原東遺跡—』

文献13. 加納2020

No.	遺跡名	遺構名	資料名	所収文献
32	②縄ヶ崎遺跡	17号住居跡	加曾利E-IV式窓跡	文献11
33	②縄ヶ崎遺跡	18号住居跡	加曾利E-IV式窓跡	文献11
34	②縄ヶ崎遺跡	49号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献11
35	②縄ヶ崎遺跡	54号住居跡	加曾利E-V式窓跡	文献11
36	②縄ヶ崎遺跡	79号住居跡	加曾利E-IV式窓跡	文献11
37	②縄ヶ崎遺跡	179号土坑	加曾利E-Vc、浜名寺窓跡	文献11
38	②縄ヶ崎遺跡	293号土坑	加曾利E-V式窓跡	文献11
39	②縄ヶ崎遺跡	5号住居跡	加曾利E-V式窓跡*	文献11
40	②縄ヶ崎遺跡	6号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
41	②縄ヶ崎遺跡	6号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
42	②縄ヶ崎遺跡	17号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
43	②縄ヶ崎遺跡	36号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
44	②縄ヶ崎遺跡	46号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
45	②縄ヶ崎遺跡	49号住居跡	中南東～後期初頭土器	文献11
46	②縄ヶ崎遺跡	194号土坑	中南東～後期初頭土器	文献11
47	②縄ヶ崎遺跡	265号土坑	中南東～後期初頭土器	文献11
48	②縄ヶ崎遺跡	313号土坑	中南東～後期初頭土器	文献11
49	②縄ヶ崎遺跡	313号土坑	中南東～後期初頭土器	文献11
50	②縄ヶ崎遺跡	340号土坑	中南東～後期初頭土器	文献11
51	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
52	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
53	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
54	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
55	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
56	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
57	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
58	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
59	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
60	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
61	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11
62	②縄ヶ崎遺跡	遺構外	中南東～後期初頭土器	文献11



第8図 展示資料出土遺跡地図